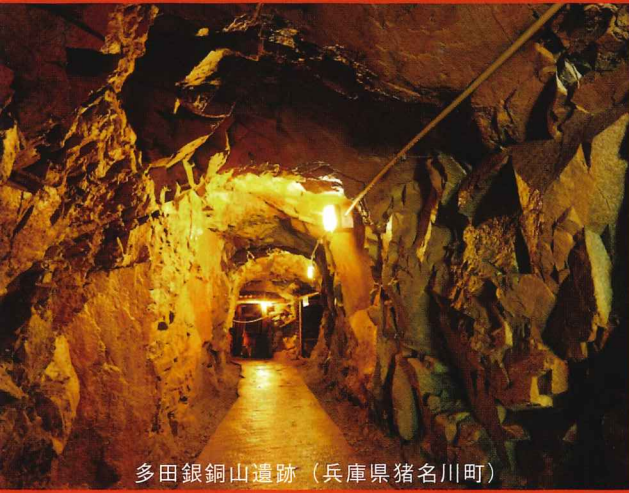




星ヶ塔黒曜石原産地遺跡（長野県下諏訪町）



星ヶ塔黒曜石原産地遺跡（長野県長和町）



多田銀銅山遺跡（兵庫県猪名川町）



大坂城石垣石丁場跡（小豆島石丁場跡）（香川県小豆島町）



若杉山辰砂採掘遺跡（阿南市）



甲斐金山遺跡（山梨県身延町）

古の採掘遺跡サミット

史跡若杉山辰砂採掘遺跡の未来を考える

令和2年

10/17(土)

13:00~17:00

阿南市文化会館・夢ホール

徳島県阿南市富岡町西池田135 番地1 ☎0884-21-0808

主催：阿南市
協力：徳島県



入場料無料 申し込みが必要です。定員200名



生LIVE配信 YouTube 阿南市

詳細は裏面に

※新型コロナウイルス感染状況により、内容を随時変更いたします。
また、無観客での開催となる場合もあります。
最新情報は阿南市 HPでお伝えいたします。

お問い合わせ先

阿南市文化振興課 ☎0884-22-1798

令和2年度地域の特色ある埋蔵文化財活用事業



1部 講演・報告 13:05 ~

・「史跡の保存と活用について」

川畑 純氏（文化庁文化財第二課）

・若杉山辰砂採掘遺跡の現状と課題

2部 他事例報告 14:00 ~

参加自治体から遺跡概要と整備等について報告

3部 パネルディスカッション 15:50 ~

・「史跡を活かしたまちづくり」

コーディネーター 禰宜田佳男氏（大阪府立弥生文化博物館館長）

パネリスト 羽田健一郎氏（長和町長） 青木 悟氏（下諏訪町長）
松本 篤氏（小豆島町長） 表原 立磨（阿南市長）

古の採掘遺跡サミット

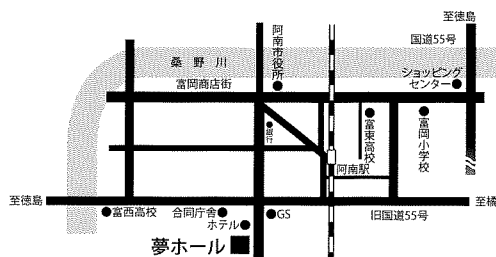
いにしえ

古より人々は、石材調達のため岩石を砕き割り、または地中の鉱物を求め、穴を掘り進め採掘を行ってきました。このような採掘の歴史は、貴重な文化遺産として国の史跡として指定された遺跡が全国に存在します。

「古の採掘遺跡サミット」の開催は、令和元年10月16日に新たに国史跡となった阿南市に所在する「若杉山辰砂採掘遺跡」の今後の保存と活用を検討するため、同様の採掘遺跡をもつ他自治体の担当者等を招き、比較検討することで、地域の方々に「若杉山辰砂採掘遺跡」の整備と活用について、一層の理解を深めていただく機会とし、また採掘遺跡を有する自治体間の連携を図り、採掘遺跡の魅力と歴史的意義を全国に発信し、まちづくりに活用するための方策を探ることを目的としています。



令和2年10月17日 [土]
開場 /12:30 開演 /13:00~17:00
阿南市文化会館夢ホール



参加申込方法

■往復はがきに、①住所(代表者)②氏名(1通で2名まで可)③連絡先(代表者)を記載して下記までお願いします。

〒774-8501

徳島県阿南市富岡町ノ町12-3
文化振興課 古の採掘遺跡サミット係

■締め切り 令和2年10月1日(木) 必着

■定員200名 応募者多数の場合は抽選させていただきます

※新型コロナウイルス感染症により、内容を随時変更いたします。また、無観客での開催となる場合もあります。最新情報は阿南市HPでお伝えいたします。

お問い合わせ Tel.0884-22-1798 (文化振興課)

☆国史跡「若杉山辰砂採掘遺跡」

全国唯一の弥生時代後期初頭から古墳時代前期初頭(1世紀~3世紀末)を主とする辰砂採掘遺跡。近年の調査で弥生時代後期の坑道跡が確認された。弥生時代・古墳時代において、鉱物獲得方法を具体的に明らかにした初めての遺跡であり、我が国の鉱物資源の利用の在り方や、朱の精製の実態を示す遺跡として極めて重要である。

☆国史跡「星糞峠黒曜石原産地遺跡」

報告者：大竹幸恵氏 (星くずの里たかやま黒曜石体験ミュージアム学芸員)

長野県霧ヶ峰高原にある本州最大規模の黒曜石原産地帯で発見された、希少な縄文時代の黒曜石採掘遺跡。星糞峠という地名は黒曜石の別称である。採掘の痕跡は特異な「凹み」として地表面からも観察することができ、史跡公園として公開されている。継続的な発掘調査の結果、縄文時代早期(8,000年前)と後期(3,500年前)に行われていた採掘活動の詳細が明らかにされた。後期の採掘跡では、地下5mを越える深さから木製の採掘具や土砂崩れ防止の木柵などが発見され、令和3年にその様子を公開する保存展示館が開館する。

☆国史跡「星ヶ塔黒曜石原産地遺跡」

報告者：宮坂清氏 (下諏訪町教育こども課 課長補佐)

縄文時代前期から晩期(5700~3000年前)にかけての黒曜石採掘遺跡。100年前の大正9年、人類学・考古学者の鳥居龍蔵によって黒曜石原産地遺跡であることが確認された。近年の調査では、35000㎡の範囲にまだ埋まりきらずにくぼみとして残っている縄文時代の黒曜石採掘跡が、193カ所分布していることが確認されるとともに、縄文時代前期と晩期の黒曜石採掘坑が発見されている。縄文時代の資源開発や流通を考えるうえで極めて重要な遺跡である。

☆国史跡「甲斐金山遺跡(中山金山)」

報告者：小松美鈴氏 (甲斐黄金村・湯之奥金山博物館 学芸員)

鉱石からの産金作業は、我が国において甲斐国が先駆けである。中山と黒川両金山の調査により、中世戦国期(16世紀初頭~)に、山中で営まれていた初源期山金山遺跡の全容、鉱山技術のありかた、作業や生活の様子が解明された。124カ所のテラス、坑道16本、77カ所の露頭掘り採掘域など、山中に作業域と生活域がコンパクトに集約された現場は、甲斐金山が全国に先駆けて山金山の始まりとなっていることを示す貴重な遺跡として、国史跡に指定されており、また博物館活動の中で継続的な金山遺跡調査が続けられている。

☆国史跡「多田銀銅山遺跡」

報告者：青木美香氏 (猪名川町教育委員会教育振興課 学芸員)

多田銀銅山遺跡は約10km四方に広がる銀銅鉱石の採掘から製錬を行った遺跡。鉱山の採掘は平安時代末期に開始され、昭和48年(1973)に閉山されるまで採掘の場所や主体者を変えながら継続的に行われていた。このうち銀山地区は豊臣秀吉の鉱山開発を経て、17世紀後半に幕府の直山となり、代官所と口番所が置かれ、鉱山管理が行われている。当時、最先端の製錬技術が採用され、生野銀山にも伝えられている。調査では代官所跡や銀銅生産関係の遺構が良好に保存されていることが確認。江戸~明治時代の鉱山の在り方や産業技術史上で重要であることから平成27年(2015)に国史跡に指定された。

☆国史跡「大坂城石垣石丁場跡(小豆島石丁場跡)」

報告者：川宿田好見氏 (小豆島町生涯学習課 学術専門員)

徳川大坂城築城時に拓かれた石丁場跡。小豆島町岩谷地区の天狗岩、八人石、豆腐石、亀崎、南谷、天狗岩磯の各丁場跡全体が指定範囲であり、全体で約1600個を超える築城用石が残っている。ここでは福岡藩黒田家の黒田筑前守長政とその嫡男忠之が採石を行った。当時の石切技術を伝える矢穴・矢穴痕や、各種の刻印が確認できる。大坂城完成後にも、黒田家は明治にいたるまで番人七兵衛を置きこの地の残石を管理させた。